



これは、なかなかお洋服を着る気持ちにならなかったちっち組のみちるちゃんを見たわかちゃんが、みちるちゃんをお着替えに誘ってくれた場面です。

「これはどお?」とお洋服を体に当てながら見せてくれます。



「どうやってするんだい?むずかしい…」といいながら頭を通すところを探します。"着せてあげる"って難しいですね

腕を通すのがイヤな様子のみちるちゃんをみて、「みっちー(みちるちゃん)が、これ着ないってしたから、やめとこっか。」とそっと置いておいてくれました。みちるちゃんのお気持ちを汲み取って、大人顔負けのわかちゃんです。



こんな小さいうちから他者の意向に沿ったサポートができるなんて、しかもそれを言葉で表現しながら…すごい!!



いすみプラザにて、『わたしもこれに乗りたいんだよ〜!!』『ダメ〜!!』お互い、譲れない思いもありますよね。お互い、先生に気持ちを受け止めてもらいつつ、なんとか折り合いをつけていきます。こんな体験やプロセスも大切にしています。



「自分の気持ち」、そして「相手の気持ち」に、じっくり対峙する時間ですね。ヒートアップしちゃうときもあるけれど、大人の手も借りつつ、その子自身の体験や心の動きを大事にしています。

切実な気持ちや身に迫る思いがぶつかりあうという感情体験が、人を強く優しくさせますね。



ブランコ空かないかな〜…。実習生の先生と一緒に待っています。こうして寄り添ってもらいながら、少しずつ、「順番」や「交代」などもできるようになってきましたね。



お手伝い保育に来てくれたすいすい組のゆうちゃんのリュックを、はるきくんが背負わせてもらっているのを見たわかちゃん。「わかちゃんもやりたい」。すると、ゆうちゃんが「ひまちゃんのリュック貸してあげたら?」と同じくすいすい組のひまりちゃんに耳打ち。「え〜いいよー」とひまりちゃん、わかちゃんにリュックを背負わせてくれました。「みて!すいすいさんみたい!」と嬉しそうなかちゃんでした。

ちょっといいなあ〜と感じたリュックを背負わせてもらい、お姉さんたちの優しさも"ずっしり"感じたかも?ですね。



### 4期まとめ

こうして振り返ってくると、「気持ちを受け止めてもらう」という体験が、だんだんと「受け止める」側になっていく姿も見えてきますね。ちっちさんへの優しい姿、お友だちへの気遣い。ぶつかりながら、酸いも甘いも経験していくからこそ、いろんな気持ちが想像できるようになってきて、自分事のように寄り添ってあげることができるようになっていくのかもしれないね。

小さな思いやりや敬意を感じながら、お姉さんたちへのあこがれを育むのかもしれないね

